

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回松本会議

「亞洲展望」研討會 第十二屆松本會議



2000

2000年10月28日(土)～11月3日(金)

「アジア・オープン・フォーラム」事務局
「亞洲公開論壇」事務處

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1
新宿グリーンタワービル9F

(株)サイマル・インターナショナル内
Tel:03-5323-5788 Fax:03-5323-7023

会議概要／會議概要

■ 会議の名称

「アジア・オープン・フォーラム」
第12回松本会議

■ 主 催

「アジア・オープン・フォーラム」

■ 会 期

2000年10月28日(土)～11月3日(金)

■ 会 場

ホテル ブエナビスタ

〒390-0814 長野県松本市本庄1-2-1

TEL: 0263-37-0111 FAX: 0263-37-0666

■ 会場事務局

ホテル ブエナビスタ2F葵

TEL: 090-2177-6811 FAX: 0263-37-1385

■ 使用言語

日本語・中国語（同時通訳付）

會議名稱

「亞洲展望」研討會
第十二屆松本會議

主辦單位

日本「亞洲公開論壇」

會 期

二〇〇〇年十月二十八日（星期六）
至十一月三日（星期五）

使用語言

日文・中文（同步翻譯）

まえがき

21世紀に向けて、アジアの動向がさらに重要性を高めつつあるなかで、世界の注目を集めた総統選挙が終了し、中華世界初めての民主的な政権交替がおこなわれた台湾の存在が、ひときわ脚光を浴びております。

本年3月に選出された陳水扁総統は、基本的には李登輝前総統の路線を踏襲していくこととなるでしょうが、このような台湾民主政治の発展が中国大陆と周辺諸国に与える影響も、はかり知れないものがあると思われます。同時に、台湾の人びとの新たなアイデンティティー確立の模索にも注目すべきものがあります。

一方、1972年9月の日台断交以来、公式な外交関係を持たない我が国と台湾との関係は、日台間の経済的・人的交流が中国大陆とのそれに比肩もしくは凌駕しているにもかかわらず、きわめて不十分なものでした。

私たちは、台湾の新しい状況および日台関係の重要性に鑑み、民間の知的交流の場として1989年5月に「アジア・オープン・フォーラム」を発足させ、同年6月に第1回台北会議、90年7月に第2回東京会議、91年7月に第3回台北会議、92年11月に第4回京都会議、93年11月に第5回台北会議、94年10月に第6回横浜会議、95年8月に第7回高雄会議、96年11月に第8回大阪会議、97年10月に第9回台中会議、98年11月に第10回松江会議、そして昨年12月には第11回台南会議を開催し、いずれもきわめて高いレベルで日台双方を代表するメンバーや外国人ゲストの出席を得て、実りある討論を積み重ねてまいりました。日台関係の上で、すでに一つの歴史的貢献を果たしたと自負することもできると思います。

そのような成果のゆえにこそ、すでに前回の台南会議でも申し上げましたが、李登輝時代の12年間とともに歩んできた当フォーラムは、今回の第12回松本会議をもって、現在のような会議方式で開催する最終回とさせていただきたいと思っております。今回は、これまで同様、台湾を代表す

導 言

邁向二十一世紀、在亞洲各種動向日益提高其重要性的今天，引起世人廣泛注目的臺灣總統選舉順利落幕了，華人世界第一個以民主方式進行政權交替的臺灣，它的存在尤其令人刮目相看。

一般認為，今年三月總統大選的當選人陳水扁總統基本上還是沿襲前總統李登輝先生的路線。然而，臺灣民主政治的這種發展模式，對中國大陸和周邊國家所帶來的影響也將是不可估量的。同時，對於臺灣人們摸索確立新的主體性，也應予以重視與關注。

另一方面，自一九七二年九月日本與臺灣斷交以來，雖然日本與臺灣在經濟和人事的交流，足以和中國大陸匹敵，甚至凌駕其上，但日本和臺灣之間的關係，仍然維持在民間層次，而不具外交關係，誠屬遺憾。

我們鑒於臺灣的新情勢和日臺關係的重要性，在一九八九年五月創設「亞洲展望」研討會，做為民間智慧交流的場所，同年六月舉行第一屆臺北會議，一九九〇年七月第二屆東京會議，一九九一年七月第三屆臺北會議，一九九二年十一月第四屆京都會議，一九九三年十一月第五屆臺北會議，一九九四年十月第六屆橫濱會議，一九九五年八月第七屆高雄會議，一九九六年十一月第八屆大阪會議，一九九七年十月第九屆臺中會議，一九九八年十一月第十屆松江會議，以及去年（一九九九年）十二月的第十一屆臺南會議，每次都有極高水準的日臺雙方代表和外國來賓出席，累積了豐碩成果的討論。在日臺關係方面，可以自豪地認為我們已經做出了一個歷史性的貢獻。

正是因為有那樣的成果，如在前次的臺南會議上所提過的，與李登輝時代的十二年一起共渡到現在的這項研討會，我們希望將本次第十二屆松本會議作為以現在這種方式所召開的最後一屆。這次一

る40余名のメンバー(団長：辜振甫・海峽交流基金會董事長)をお迎えし、「新世紀への知的戦略」を共通テーマに別項のようなセッションで日台双方、ひいては広くアジア全域に共通する諸問題を率直に論じ合いたいと思っています。

また、国際政治や国際経済、国際関係の各側面においてグローバル化が進展する状況に鑑み、広く中国、香港、韓国、米国、フランス、ロシアなどからもゲストをお招きし、より多角的な視野から、議論を深めたいと考えております。

なお、李登輝前総統は、一知識人として当フォーラムに是非出席したいとの強い意向を引きつづきお持ちですので、それが実現できますように私たちも努力したいと考えております。

皆様方のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2000年10月

「アジア・オープン・フォーラム」世話人一同

如往昔、我們迎接代表臺灣的四十多位成員(團長：海峽交流基金會董事長辜振甫先生)，以“新世紀的智慧戰略”為共同主題，在另列的子題上，就日臺關係，進而廣泛地對整個亞洲地區所面臨的共同問題進行坦率的討論。

還有，鑒於在國際政治、國際經濟及國際關係各方面展開著全球化進展的情況，我們也期待能廣泛地從中國、香港、韓國、美國、法國、俄國等地邀請貴賓，從多方方面的觀點、用更廣闊的視野進行深入的研討。

另外，得知前總統李登輝先生強烈希望能夠以作為一名知識人士出席本次研討會，我們將儘力協助其實現願望。

敬祈臺端惠予協助，光臨指導，共襄盛舉。

日本「亞洲展望」研討會籌備處全體同仁
謹識

2000年10月

プログラム／會議日程

共通テーマ／共同主題

「新世紀への知的戦略」／「新世紀的智慧戦略」

会 場／會 場

ホテル ブエナビスタ／HOTEL BUENA VISTA

〒390-0814 松本市本庄1-2-1 TEL：0263-37-0111 FAX：0263-37-0666

宿 泊／住 宿

ホテル ブエナビスタ／HOTEL BUENA VISTA

同上

松本東急イン／松本東急INN

〒390-0815 松本市深志1-3-21 TEL：0263-36-0109 FAX：0263-36-0883

10月28日(土)／(星期六)

台湾側代表団来日

(中華航空CI 100便、12:00台北国際空港発、
15:45羽田空港着)

台湾側代表団、帝国ホテルに移動、宿泊。

中方代表團来日

(中華航空CI 100班機、12:00從臺北中正國際
機場起飛、15:45抵達羽田機場)

中方代表團前往帝國HOTEL、並住宿在此。

宿 泊／住 宿

帝国ホテル／帝國HOTEL

〒100-8558 千代田区内幸町1-1-1 TEL：03-3504-1111 FAX：03-3504-1288

10月29日(日)／(星期日)

バスで松本市へ、

途中松本市内観光を経て、会場へ。

乗大客車前往松本市。

途徑松本市、於市内觀光後前往會場。

歡迎晚餐会 18:30～20:30 歡迎晚宴

会 場／會 場

ホテル ブエナビスタ「鳳凰の間」／HOTEL BUENA VISTA (鳳凰廳)

歡迎挨拶：

亀井正夫 (日本側代表団団長)

辜濂松 (台湾側代表団代理団長)

有賀正 (松本市長)

致歡迎詞：

亀井正夫 (日本方面代表團團長)

辜濂松 (台灣方面代表團代理團長)

有賀正 (松本市市長)

10月30日(月)/(星期一)
受 付 8:30~9:00 報 到

開会式 9:00~10:00 開幕式

日本側代表団長挨拶：

亀井正夫（住友電気工業相談役）

台湾側代表団長挨拶：

辜振甫（海峡交流基金会董事長）

貴賓祝辞

来賓挨拶

台湾側：郭婉容（国家政策研究基金会董事）

日本側：塩川正十郎（自由民主党衆議院議員総
会長、東洋大学理事長）

日方代表團團長迎詞：

亀井正夫（住友電気工業股份有限公司相談役）

中方代表團團長致詞：

辜振甫（海峡交流基金会董事長）

貴賓賀詞

來賓致詞

中 方：郭婉容（國家發展基金会董事）

日 方：塩川正十郎（自由民主黨衆議院議員總
會長、東洋大學理事長）

コーヒーブレイク 10:00~10:10 休息時間

第1セッション 10:10~12:40 第一場會議

「グローバリズムとアジアの現実」

議 長：金森久雄（日本経済研究センター顧問）

報告者：深田祐介（作家）

陳小紅（国立政治大学社会科学学院
院長）

討論者：林碧炤（国立政治大学外交学系教授）

青木保（政策研究大学院大学教授）

「全球共同體論與亞洲的現實」

主 席：金森久雄（日本經濟研究中心顧問）

報告人：深田祐介（作家）

陳小紅（國立政治大學社會科學學院
院長）

評論人：林碧炤（國立政治大學外交系教授）

青木保（政策研究大學院大學教授）

昼 食 12:40~14:00 午 餐

第2セッション 14:00~16:30 第二場會議

「經濟戰略と情報環境」

議 長：張京育（中華歐亞教育基金会董事長）

報告者：劉大年（中華經濟研究院研究員）

石井威望（東京大学名誉教授）

「經濟戰略與資訊環境」

主 席：張京育（中華歐亞教育基金会董事長）

報告人：劉大年（中華經濟研究院研究員）

石井威望（東京大學名譽教授）

コーヒーブレイク 15:10~15:20 休息時間

討論者：岡崎久彦（博報堂岡崎研究所所長、
外交評論家）

劉泰英（台湾綜合研究院院長）

評論人：岡崎久彦（博報堂岡崎研究所所長、
外交評論家）

劉泰英（臺灣綜合研究院院長）

10月31日(火)／(星期二)

第3セッション 9:00～11:30 第三場會議

「文化と安全保障」

「文化與安全保障」

議長：大宅映子（評論家）

主席：大宅映子（評論家）

報告者：日下公人（多摩大学大学院教授、
東京財団会長）

報告人：日下公人（多摩大學研究所教授、
東京財團會長）

林正義（中央研究院歐米研究所所長）

林正義（中央研究院歐美研究所所長）

コーヒーブレイク 10:10～10:20 休息時間

討論者：許介麟（台湾大学法学院院長）

評論人：許介麟（臺灣大學法學院院長）

山崎正和（東亜大学学長、劇作家）

山崎正和（東亞大學校長、劇作家）

閉会式 11:30～12:00 閉幕式

議長：張京育（中華歐亞教育基金會董事長）

主席：張京育（中華歐亞教育基金會董事長）

金森久雄（日本經濟研究センター顧問）

金森久雄（日本經濟研究中心顧問）

台湾側挨拶：何恩因・台湾側代表団秘書長
（国立政治大学国際関係センター主任）

中方致詞：何恩因 中方代表團秘書長
（國立政治大學國際關係中心主任）

日本側挨拶：中嶋嶺雄・日本側代表団秘書長
（東京外国語大学学長）

日方致詞：中嶋嶺雄 日方代表團秘書長
（東京外國語大學校長）

昼食 12:00～13:00 午 餐

松本音楽文化ホール(The Harmony Hall)へ移動。

前往松本音樂文化大廳(The Harmony Hall)。

閉幕セレモニー 14:00～16:00 閉幕典禮

会場／會場

松本音楽文化ホール(The Harmony Hall)／松本音楽文化大廳(The Harmony Hall)

〒390-0851 松本市島内4351 TEL: 0263-47-2004 FAX: 0263-47-2383

才能教育研究会(スズキメソッド)による歓迎演奏

由才能教育研究會(Suzuki Method)

演奏歡迎樂曲

特別シンポジウム

『「アジア・オープン・フォーラム」の12年間』

美ヶ原温泉ホテル「翔峰」へ移動。

特別專題討論會

「『亞洲展望』研討會的十二年回顧」

前往美原溫泉HOTEL「翔峰」。

台灣側答礼宴 18:30～20:30 中方代表團答謝宴

会場・宿泊／會場、住宿

美ヶ原温泉ホテル「翔峰」／美原温泉HOTEL「翔峰」

〒390-0221 松本市大字里山辺527 TEL: 0263-38-7711 FAX: 0263-38-7700

11月1日(水)／(星期三)

台湾側代表團・外国人ゲスト、晩秋の上高地への小旅行。

中方代表團、外國來賓前往上高地渡過晩秋之旅。

宿 泊／住 宿

上高地帝国ホテル／上高地帝國HOTEL

〒390-1516 南安曇郡安曇村上高地 TEL: 0263-95-2001 FAX: 0263-95-2412

上高地清水屋ホテル／上高地清水屋HOTEL

〒390-1516 南安曇郡安曇村4469-1 TEL: 0263-95-2121 FAX: 0263-95-2546

11月2日(木)／(星期四)

上高地 散策ののち東京へ移動。

在上高地遊覽之後前往東京。

宿 泊／住 宿

帝国ホテル／帝國HOTEL

11月3日(金)／(星期五)

台湾側代表團離日（中華航空CI 17便、14:00羽田空港発、16:40台北国際空港着）

中方代表團離開日本返臺（中華航空 CI17班機，14:00從羽田機場起飛，16:40抵達臺北中正國際機場）

閉会式/閉幕式

■議長/主席

金 森 久 雄

8頁参照

■台湾側挨拶/台灣代表致詞



何 思 因

HO, Szu-yin

生年月日：1956.11.1

学歴：米カリフォルニア大学サンタ
バーバラ校政治学博士

現在：国立政治大学国際関係研究セ
ンター主任

国立政治大学政治学科教授

學歴：美國加州大學聖塔巴巴拉(Santa
Barbara)分校政治學博士

現職：國立政治大學國際關係研究中心
主任

國立政治大學政治系教授

■日本側挨拶/日本代表致詞



中 嶋 嶺 雄

NAKAJIMA, Mineo

生年月日：1936.5.11

学歴：東京大学社会学博士
(国際関係論)

現在：東京外国語大学学長

學歴：東京大學社會學博士
(國際關係論)

現職：東京外國語大學校長

(五十音順・按發音順序排列)

顧問： 梅棹 忠夫 (UMESAO Tadao)
平岩 外四 (HIRAIWA Gaishi)

国立民族博物館顧問
東京電力相談役

メンバー／

成 員： ☆合田 周平 (AIDA Shuhei)

九州ヒューマンメディア創造センター理事長、
電気通信大学名誉教授

青木 保 (AOKI Tamotsu)
赤澤 璋一 (AKAZAWA Shoichi)
明間 輝行 (AKEMA Teruyuki)
☆飯田 経夫 (IIDA Tsuneo)
☆石井 威望 (ISHII Takemochi)
石井 幹子 (ISHII Motoko)
市村 眞一 (ICHIMURA Shinichi)
大宅 映子 (OHYA Eiko)
岡崎 久彦 (OKAZAKI Hisahiko)
加地 伸行 (KAJI Nobuyuki)
粕谷 一希 (KASUYA Kazuki)
☆金森 久雄 (KANAMORI Hisao)
神谷 不二 (KAMIYA Fuji)

政策研究大学院大学教授
世界平和研究所副会長
東北電力取締役会長
中部大学大学院教授、名古屋大学名誉教授
東京大学名誉教授
石井幹子デザイン事務所代表取締役
国際東アジア研究センター所長
評論家
博報堂岡崎研究所所長、外交評論家
大阪大学名誉教授
評論家
日本経済研究センター顧問
東洋英和女学院大学教授、慶応義塾大学名
誉教授

☆亀井 正夫 (KAMEI Masao)
川島 廣守 (KAWASHIMA Hiromori)
河田 悌一 (KAWADA Teiichi)
北岡 伸一 (KITAOKA Shinichi)
京極 純一 (KYOGOKU Junichi)
☆日下 公人 (KUSAKA Kimindo)
草柳 大蔵 (KUSAYANAGI Taizo)
香西 泰 (KOSAI Yutaka)
☆小林陽太郎 (KOBAYASHI Yotaro)
近藤 道生 (KONDO Michitaka)
佐々 淳行 (SASA Atsuyuki)
島田 晴雄 (SHIMADA Haruo)
末次 一郎 (SUETSUGU Ichiro)
関本 忠弘 (SEKIMOTO Tadahiro)
高原須美子 (TAKAHARA Sumiko)
田久保忠衛 (TAKUBO Tadae)
竹中 一雄 (TAKENAKA Ichio)
竹村 健一 (TAKEMURA Kenichi)
☆武山 泰雄 (TAKEYAMA Yasuo)
☆堤 清二 (TSUTSUMI Seiji)

住友電気工業相談役
日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー
関西大学教授
東京大学教授
東京大学名誉教授
多摩大学大学院教授、東京財団会長
評論家
日本経済研究センター会長
富士ゼロックス会長
博報堂代表取締役
評論家、元内閣安全保障室長
慶応義塾大学教授
安全保障問題研究会代表
日本電気取締役相談役
経済評論家
杏林大学教授
国民経済研究協会顧問
評論家
武山事務所代表
セゾン文化財団理事長

☆中嶋 嶺雄	(NAKAJIMA Mineo)	東京外国語大学学長
中谷 巖	(NAKATANI Iwao)	三和総合研究所理事長，多摩大学教授
袴田 茂樹	(HAKAMADA Shigeki)	青山学院大学教授
芳賀 徹	(HAGA Tohru)	京都造形芸術大学学長，東京大学名誉教授
平川 祐弘	(HIRAKAWA Sukehiro)	福岡女学院大学教授，東京大学名誉教授
平松 守彦	(HIRAMATSU Morihiko)	大分県知事
☆深田 祐介	(FUKADA Yusuke)	作家
松谷健一郎	(MATSUTANI Kenichiro)	中国電力常任相談役
三浦 朱門	(MIURA Shumon)	作家
村上陽一郎	(MURAKAMI Yoichiro)	国際基督教大学教授
森井 清二	(MORII Seiji)	関西電力相談役
山崎 正和	(YAMAZAKI Masakazu)	東亜大学学長，劇作家
若林 正丈	(WAKABAYASHI Masahiro)	東京大学教授

☆印は世話人／☆印為聯絡人

(2000年10月現在)

會議に関する注意事項／會議注意事項

■名 札

會議中は名札をお付け下さい。名札の色分けは次のようになっております。

台湾側代表・外国人オブザーバー	青
日本側出席者	赤
傍聴者	黄緑
報道関係者	オレンジ

■議事規則

報告者 20分
討論者 10分

■食 事

10月29日夜の歓迎晩餐会、31日夜の答礼宴は、出席者全員につき、主催者が負担致します。

■規定外の會議中における私用諸経費につきましては御自分で御精算下さい。

■識別証

會期中、請佩帶識別証。識別証之色別如下：

台灣代表・外國觀察員	藍色
日方出席者	紅色
旁聴者	黄綠色
傳播界人士	橙黃色

■議事規則

報告人 20分鐘
評論人 10分鐘

■用 餐

10月29日の歓迎晩宴、以及31日の答謝宴之經費由中日主辦單位負擔。

■會期中的雜費(如電話費、洗衣費等)請自行付費。

— 会議事務局／會議秘書處 —

■事務局長／秘書長

中嶋 嶺雄（東京外国語大学学長）

■事務局／秘書處

吳 意雯（中国時報系 ハイテクニュースセンター日本研究員）

楊 明珠（朝日新聞 台北支局）

邱 淑珍（東京外国語大学大学院博士後期課程）

山崎 直也（東京外国語大学大学院博士前期課程）

野崎 晃市（東京外国語大学大学院博士前期課程）

野崎 祐司（東京財団）

吉田 義和（同上）

平沢 光（同上）

星野 晶子（同上）

高橋 正基（同上）

大宮司義光（サイマル・インターナショナル／同歩翻譯國際公司）

永田 和美（同上）

■同時通訳者／同歩翻譯者

依光 瑞子（サイマル・インターナショナル／同歩翻譯國際公司）

及川 勝洋（同上）

千葉 俊明（同上）

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回松本会議

亀井正夫・日本代表团団長
(住友電気工業株式会社相談役)

開 会 式 挨 拶



2000

2000年10月30日

辜濂松代理団長、郭婉容先生並びにご来臨の皆様

「アジア・オープン・フォーラム」第十二回松本会議の開催に当たり、日本側代表団を代表致しまして歓迎のご挨拶を申し上げます。

先ず、李登輝閣下の久々のご来日を歓迎するとともに、本フォーラムにご参加頂けたことに心より感謝申し上げます。

台湾側代表団の皆様、ようこそお越しく下さいました。深く感謝致しますと共に心からご歓迎申し上げます。また、本フォーラム開催のために一方ならぬご尽力を賜りました、黄世恵副団長、張京育副団長、何思因秘書長並びに台湾側スタッフの方々に対しましても衷心より厚く御礼申し上げます。

さらに今回の会議のためにゲスト・オブザーバーとして出席して頂きました皆様方にも心からの歓迎の意を表させて頂きます。

さて、昨年十二月に台南において開催されました本フォーラム第十一回会議以来一年近くが経過致しました。この間の世界情勢を振り返りますと、二十世紀の終わりを感ぜさせるような幾多の変化が起こっております。

主要国の経済動向をみますと、アメリカ経済はIT革命をテコに拡大基調を継

続しており、個人消費・設備投資ともに活況であり、世界のリーダーとして世界経済の牽引役を果たしています。ヨーロッパではEUの統合が進展しており失業問題には悩んでいるものの、景気はゆるやかな回復を示しています。一方、東南アジアでは、三年前の通貨不安から立ち直り、極めて経済は好調でありますが、中国の景気の拡大テンポは鈍化傾向にあります。

こうした中、本年は政治的に大きな意味を持つ選挙が各国で続きました。まず、三月には台湾に於いて総統選挙が行われ、民進党の陳水扁候補が当選されました。長年続いてきた国民党一党支配体制から連合政権へ移行するとともに、北東アジアにおいて最も若いリーダーが誕生しました。陳総統は、その就任式において、中国に対して武力行使を行わないならば、対等の立場で交渉に応ずるという毅然とした態度を表明され、これにより国民の絶大な支持を受けられ、台湾のアイデンティティを確立されました。四月にはロシアでプーチン新大統領が誕生しました。七月の沖縄サミットや九月の国連総会などで存在感をアピールしているものの、原子力潜水艦の沈没事件にみられるように、政治・経済・軍事などの建て直しと近代化は緒についたばかりの状況であります。六月には日本で総選挙があり

ました。四月に小渕前総理が突然ご逝去され、それを引き継いだ森総理にとって最初の選挙でした。結果は与党三党は大きく議席を減らしたものの、安定過半数は確保しており、森内閣は、冷戦構造崩壊後、長期化している不況への対策続行と、政治や産業において最近出てきた制度疲労現象の解決へ向け、引き続き種々努力されているところであります。また、米国ではまもなく大統領選挙が行われます。目下、民主党のゴア候補と共和党のブッシュ候補が猛烈に競り合っていますが、その結果は二十一世紀初頭の世界に大きな影響をもたらすことでしょう。

まもなく世界は二十一世紀を迎えます。それを目前にして朝鮮半島では大きな変化が起こっております。五月の韓国と北朝鮮のトップ会談を受けて、シドニーオリンピックでは入場行進を共同で行うなど、統合の機運が俄然盛り上がってきました。しかし、北朝鮮の真意は未だに不明であり、両国統合の前途ははっきりしていません。北東アジアにとってそれ以上に大きな不安定要素は中国であります。内に抱える政治的、経済的、社会的な難問をどのように解決するのか、またはそれが出来るのかは我々にとっても大きな問題であります。こうした中、貴国は、陳水扁新総統のもと、昨年秋季に起こった大震災からの復興も順調に進んでお

り、またIT産業の世界的拠点として強い競争力を持つており、経済成長も六%、一人当たりGDPも一万三千ドルにまで達していると伺っております。政治的にも今回の総統選挙において政権交代が民主的に起こりうる民主主義国家であることを証明されました。誠に同慶の至りであります。一方、日本においては、バブル崩壊以降長引く不況からの回復が相変わらず遅れており、さらにその対策のために積み上がった国家債務は六五〇兆円に達しております。政治・経済・社会システムの抜本的改革もまだ道半ばの状況です。とはいうものの、ことしに入り――三月のGDPの伸びは、年率一〇・三%、四―六月は四・二%を記録しております、ようやく景気の底入れができたようです。また、先送りを続けてきた社会システムの抜本的改革も徐々にではありますが、進み始めました。来年にはやっと明るい光が日本にも射してくるものと期待しております。

このように貴国と日本の政治・経済状況は異なった状況にありますが、歴史的に見るとまさに一衣帯水の地域として長い付き合いがあります。今回のフォーラムにおきましては、「新世紀への知的戦略」を共通テーマとして、「グローバルizmとアジアの現実」、「経済戦略と情報環境」そして「文化と安全保障」という誠

に時宜を得た三つのテーマにつきまして、活発な討議が予定されております。日台両国の政治、経済、学術、言論、文化の各界を代表する方々並びに各国のゲスト・オブザーバーの方々が一堂に会し、広く英知を結集して得られる提言は、必ずや日台両国のみならず、アジア太平洋地域の永続的な発展のために大いに貢献するものと期待致しております。

貴国と日本との関係につきましては、言うまでもなく、ともに儒教文化の影響を受け、政治・経済・文化の面において親密な関係にあります。現在でも経済貿易や文化交流にとどまらず、科学技術協力やスポーツ、ファッションに至るまで、幅広い交流が進展しております。昨年の実績で見ましても、貴国と日本との貿易総額は約五兆円、人的交流の面でも双方の人的往来は延べ一七〇万人を超えております。

「アジア・オープン・フォーラム」はこの第十二回松本会議を以て最終回となります。この十一年にわたり、民間人を中心とするこの知的交流を通じて、日台両国及び関係諸国間の相互理解が一段と深まり、両国の親密な関係がさらに確固たるものとなってきたと確信しております。この場を借りて、この間長年にわた

り、台湾側団長として本フォーラムの発展のために、多大なご尽力を頂いた辜振甫先生に心より感謝申し上げます。

今後とも、日台両国が相携えてアジア太平洋地域の安定と繁栄、さらに世界平和の確立と自由貿易体制の維持・発展に貢献していくことを祈念してやみません。

最後に、皆様、この松本は中嶋先生の故郷であります。日本アルプスに囲まれた風光明媚な当地にて、深まりゆく日本の秋をゆっくり満喫して頂きたいと思います。

ご静聴を感謝致します。

以上

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回松本会議

貴賓挨拶

中華民国前総統 李 登輝博士



2000

2000年10月30日

「アジア・オープン・フォーラム」第十二回松本会議における
台湾前総統李登輝博士の挨拶

亀井団長、幸団長、中嶋学長、ならびに御参会の皆様、

第十二回「アジア・オープン・フォーラム」が本日、日本の長野県松本市において開幕されますことは、歴史的に大変意義深いことだと思います。この十二年来、亀井正夫団長、中嶋嶺雄秘書長及び日台双方の産業界や学界で重鎮をなす方々の御指導の下、本フォーラムは双方に共通する重要問題について討論を行って参りました。「アジア・オープン・フォーラム」は両国の政府と国民が諸問題を理解し、認識する上で大きな役割を果たし、さらに台湾と日本の間の交流と協力を促進することにより、双方は障害を乗り越え、経済、文化、学術面で相互に触発し合ってきました。本フォーラムの成長は、日本と台湾の友好関係の持続的な発展における、いわば開拓者としての無限の使命を果たしたと言えます。本年第十二回「アジア・オープン・フォーラム」が、この二十世紀の終わりとともにすばらしいピリオドを打つことができ、私は、本フォーラムに参加された日台のすべての人々に対して心より感謝申し上げる次第であります。

二十一世紀の到来とともに、人類はこれまでにないグローバル化の時代を迎えております。その積極的側面としては、世界経済の自由化が拡大し、エネルギーの生産と効率が増し、人類の生活水準は徐々に向上していくことが挙げられます。しかし、南北間の貧富の差が拡大し、各国の金融制度の健全さが試され、多くの国の経済が破綻するといった消極的側面も否定できません。こうしたことから今回の「アジア・オープン・フォーラム」は「新世紀への知的戦略」をテーマとしています。まさにマクロ的かつ長期的視野を備えたテーマであると言えますでしょう。私たちは、二十世紀の二度における世界大戦という苦い経験を繰り返さぬよう衆智を結集して、文化の違いや歴史的背景を超えたグローバルな発展を追求し、全人類が調和して共存してゆける新世紀に向かって邁進していく必要があります。

アジア諸国の立場について述べますと、新世紀における最大の問題はいかにして経済面の困難を克服するかということです。一九九九年七月を振り返りますと、タイから始まった金融危機は、工業国家の個人資金が大量に開発途上国に流れたことと関係があります。開発途上国にとって外国の直接投資は、経済成

長とグローバルな競争力を獲得するための有効な手段であると考えられたため、長期的な資金の主な流入源となっています。また、それに伴い、技術、管理及び販路拡大の技術も導入されて参りました。このため一九九〇年代の末には、ますます多くのアジア諸国が政策の変更により外国資本を受け入れるようになりました。外国の直接投資のほか、IT・通信技術の急速な発展と、国内金融市場の開放、及び資金取引の自由化により、各国の銀行やノンバンクの金融機関が次々にボーダレスな金融流通に加わってきました。

しかしながら、金融市場の開放により短期的な資金の流入を受け入れてきた国々は、これらの投資がもたらすリスクも受け入れなければなりません。アジアの金融危機はこうした現象を反映しているのです。投資家の判断に急速な変更が生じた場合、資金の大量流出は、金融の不安定をもたらし、ひいては社会の動揺や政治的動乱を引き起こします。台湾を除く東南アジア地域の多くの国々がすべて、これまでに影響を受けています。

その結果、経済のグローバル化は各国に、国内外の安全性は総合的に判断しな

ければならないという教訓を残しました。安全保障の伝統的戦略は政治面に限られてきましたが、事実としては、社会と経済の安全性が国家的及び国際的安全性の重要な鍵だといえます。従って経済のグローバル化がもたらす国家経済の安全性への脅威に対応するために、いかにして安定的な経済戦略を採るかは、各国が共同で考慮すべき問題になっています。また、いかにして国内の金融ルールの制定を強化し、健全な金融制度を成立させ、経済秩序を資本市場のグローバル化による衝撃から守るかということも各国が総力を挙げて推し進める重要な課題になっています。

グローバル化が進行する大きな趨勢と日増しに増加する貿易金融の相互関係に目を向ければ、東南アジア諸国は現在、地域内の経済の監視制御や相互の経済政策の協調によって、金融の混乱を予測防止するシステムを立ち上げる研究をしています。こうした経済戦略が成功するか否かは、ITの発展と密接な関係があります。正確な情報を掌握するのはもちろん、各国政府が適宜にあらゆる情報を提供してこそ、有効な予防システムが確立されるのです。私たちは、アジアの国々がさらにマクロ的視野を養い、経済協力を強化し、金融経済の安定的発展をと

に維持していくことを願っています。台湾は東南アジア社会の建設的なメンバーとして、開放的な精神と積極的な態度をもって、引き続き地域の協力と発展に参加する所存であります。永年にわたり、台湾は民間活力を十分に活用し、産業のグレードアップを徐々に推し進め、成功裡に発展し、豊かな経済力を蓄えることもできましたが、私たちはこの経験を各国と分かち合うことを切に願っています。今後アジアひいては全世界の経済貿易の相互発展のために、台湾はさらに重要な役割を果たしていくことを願っており、かつその力を備えています。

未来を展望すれば、経済のグローバル化によって各国間の相互依存は増大し、互いの境界はさらにあいまいなものとなるでしょう。各国が解決すべき問題はさらに増加し、より複雑化するでしょう。私たちは工業のグレードアップや知識の向上、医療の普及及び文化の充実を目にしましたが、しかし一方で、貧富の差や種族間の衝突、エネルギーの不足、環境破壊も目にしてきました。これらのグローバルな問題は、国際社会の協力なくして解決することはできません。このこともまた新しい世紀に全人類が直面する重大な挑戦であります。

このような情勢に直面して、人道的支援や国際協力が絶対に必要であります。人類数千年の歴史を振り返れば、人類の間に生じた衝突、論争或いは紛争は、安易に武力に訴えても根本的な問題を解決することは不可能であり、ただ単に恨みや悲しみ、後悔、さらには癒すことのできない傷跡を残すのみでありましょう。新世紀の到来に際し、歴史的教訓を肝に銘じ、新たな考え方や態度で世界が直面している課題に立ち向かわねばなりません。公的な国際組織のほかに、数多くの民間の組織及び個人も建設的な役割を果たすことができます。皆様方の努力推進によって、アジアの国々がさらに緊密な地域協力へと発展するのみならず、その他の地域の国々も世界の平和と繁栄を促進する分野で貢献するものと信じます。従って、「アジア・オープン・フォーラム」は学術的討論の場にとどまらず、歴史を革新する推進力になる重要な会議であります。今回を限りに本フォーラムが再び開催されることはありませんが、私は皆様と会の代表者が知識交流の情熱を保ち続け、密接な連携を保ち、経験を受け継いでくださるようお願い申し上げます。日本と台湾の交流、アジアの未来、及び二十一世紀の発展のために絶えず研究と提言を行い、「アジア・オープン・フォーラム」の精神を大きく発揚されますよう希望しております。最後に皆々様の御健康と御多幸、フォーラムの大成功をお祈

りしてご挨拶とさせていただきます。

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回松本会議

塩川正十郎

(衆議院議員)

来賓挨拶



2000

2000年10月30日

「アジア・オープン・フォーラム」第十二回松本会議が開かれるに当たって、一言ご挨拶申しあげます。

一九八九年六月に台北で、第一回会議が開催されて以来、日台間には知的交流の場が生まれました。それから今日までの間、国際社会にはさまざまな変化が起きましたが、幸いにしてアジアは、二十一世紀へ向かって着実な歩みを続けております。私はこの点について、「アジア・オープン・フォーラム」が果たした民間外交の役割を高く評価しなければならないと思います。

申すまでもなく、「アジア・オープン・フォーラム」は、李登輝前總統の英断に導かれて生まれました。李前總統の親日感情が、日台関係の絆を深めたことは皆様ご承知のとおりであります。同時に、李總統の十二年間の治世で台湾は素晴らしい自由主義社会、民主国家に発展し、更に最近では情報通信技術の普及発展を通じて、東南アジアの経済に指導的な地位を占めておられます。これは実に偉大なことで、李登輝前總統の業績は枚挙にいとまがありません。しかしながら、これを凝縮して申せば、中華世界を変えたという言葉で表現できるものと思います。

最近『アジアの知略』という本が出版されました。これは李登輝前總統と、中嶋嶺雄・東京外国語大学学長の共著で、それぞれ独自のテーマについて、交互に

意見を述べあうという形をとっています。

その本のまえがきで、李前總統は次のように述べておられます。

「最初のころは、日本と台湾とのあいだもぎくしゃくしていて、民間の知的交流の場なのに話がなかなか通じませんでした。しかし、このフォーラムを積み重ねたおかげで、いまは日台の関係も非常にうまくいくようになりました。『アジア・オープン・フォーラム』はぜひ続けてほしい、と私は盛んに要求しているのですが、今回、二〇〇〇年の秋に長野県松本市で第十二回会議を開催して、ひとまず区切りをつけることになっています。そのときは私もぜひ松本を訪れたいと思っています。」

皆さん、そうなんです。「アジア・オープン・フォーラム」は、第十二回目の、この松本会議で、このような合同会議方式は成功裡にひとまず終わるのです。しかしながらこのフォーラムで討論された提言や指摘は、必ずアジアの将来に活きた智慧となってくると信じます。

そこで私は最後に申しあげたい。この複雑な国際環境のなかで、日台間に友好と信頼の絆を結ぶ努力を積み重ねられた、辜振甫・団長を初めとする台湾側の世話人。亀井正夫団長、中嶋嶺雄学長はじめ日本側の世話人の皆様方に、心からの

敬意と謝意を表したいと思います。そして「アジア・オープン・フォーラム」の最終回が、中嶋学長の故郷である、ここ松本市で開かれたことに、日台関係の歴史的な発展を見出すものであります。

さらに、台湾の陳水扁新政権も、引き続き日台関係の強化と、アジアの平和に貢献して下さるものと願って、私のご挨拶とさせていただきます。

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回松本会議

日本側出席予定者名簿



2000

2000年10月28日～11月3日

メンバー参加者リスト

参加者名	10月29日	10月30日				10月31日		
	歓迎 晩餐会	開会式	第1 セッション	第2 セッション	第3 セッション	開会式	閉幕 セレモニー	答礼宴
合田 周平	○	○	○	○	○	○	○	○
青木 保	○	○	○	○	○	○	○	×
飯田 経夫	○	○	○	○	○	○	○	○
石井 威望	×	×	×	○	×	×	×	×
市村 眞一	○	○	○	○	○	○	○	○
大宅 映子	○	○	○	○	○	○	○	○
岡崎 久彦	○	○	○	○	○	○	○	○
加地 伸行	○	○	○	○	×	×	×	×
粕谷 一希	×	○	○	○	○	○	○	○
金森 久雄	○	○	○	○	○	○	○	○
神谷 不二	○	○	○	○	○	○	○	○
亀井 正夫	○	○	○	○	○	○	○	○
河田 悌一	○	○	○	○	○	○	○	○
京極 純一	○	○	○	○	○	○	○	○
日下 公人	○	○	○	○	○	○	○	○
佐々 淳行	○	○	○	×	×	×	×	×
末次 一郎	○	○	○	○	○	○	×	×
竹中 一雄	○	○	○	○	○	○	○	○
武山 泰雄	○	○	○	○	○	○	○	○
中嶋 嶺雄	○	○	○	○	○	○	○	○
袴田 茂樹	×	×	×	○	○	○	○	○
深田 祐介	○	○	○	×	×	×	×	×
山崎 正和	×	×	×	×	○	○	×	×
若林 正丈	○	○	○	○	○	×	×	×

招待者参加者リスト

参加者名	10月29日	10月30日			10月31日			
	歓迎 晩餐会	開会式	第1 セッション	第2 セッション	第3 セッション	開会式	閉幕 セレモニー	答礼宴
赤倉 泉	○	○	○	○	○	○	—	—
赤松 正雄	○	○	○	○	○	○	○	○
阿部 純一	○	○	○	○	○	○	○	○
石田 浩	○	○	○	○	○	○	○	○
井尻 秀憲	○	○	○	○	○	○	○	○
伊豆見 元	○	○	○	○	○	○	○	○
伊藤 潔	○	○	○	○	○	○	○	○
伊原 吉之助	○	○	○	○	○	○	○	○
岩野 弘	○	○	○	○	○	○	×	×
宇佐美 滋	○	○	○	○	○	○	○	○
江頭 数馬	—	○	○	○	○	○	○	○
王 行虎	○	○	○	○	○	○	○	○
大谷 三佐夫	○	○	○	○	○	○	○	○
小笠原 欣幸	○	○	○	○	○	○	○	○
岡本 幸治	○	○	○	○	○	○	○	○
柿澤 弘治	○	○	○	○	○	○	○	○
加藤 秀治郎	○	○	○	○	○	—	—	—
加藤 淳平	×	×	×	○	×	×	×	×
金子 秀敏	○	○	○	○	○	○	○	○
亀井 久興	○	○	○	○	×	×	×	×
川勝 平太	○	○	○	○	○	○	○	×
楠田 實	○	○	○	○	○	○	○	×
倉田 信靖	○	○	○	○	○	○	○	○
興梠 一郎	×	×	○	○	○	○	×	×
小島 朋之	○	○	○	○	○	○	○	—
小島 弘	○	○	○	○	○	○	○	○
後藤 利雄	○	○	○	○	○	○	○	○
近藤 健彦	○	○	○	○	○	○	○	○
佐瀬 昌盛	○	○	○	○	○	○	×	×
塩川 正十郎	○	○	○	○	○	○	×	×
澁谷 司	×	○	○	○	×	×	×	×
志村 規矩夫	○	○	○	○	○	○	○	×
鈴木 幸夫	○	○	○	○	○	○	○	○
須藤 眞志	○	○	○	○	○	○	×	×
須之部 量三	○	○	○	○	○	○	×	×
千本 倅生	×	×	×	×	○	○	○	○

招待者参加者リスト

参加者名	10月29日	10月30日			10月31日			
	歓迎 晩餐会	開会式	第1 セッション	第2 セッション	第3 セッション	開会式	閉幕 セレモニー	答礼宴
曾根 泰教	○	○	○	○	○	○	×	×
竹内 宏	○	○	○	○	×	×	×	×
田中 恭子	○	○	○	○	○	○	○	○
中川 昌郎	○	○	○	○	○	○	○	○
中島 宏	○	○	○	○	○	○	○	×
中園 和仁	○	○	○	○	○	○	—	—
西井 正弘	○	○	○	○	○	○	○	○
丹羽 春喜	○	○	○	○	○	○	○	×
野崎 四郎	○	○	○	○	—	—	—	—
濱本 良一	○	○	○	○	○	○	○	○
原 富士男	○	○	○	○	○	○	○	○
樋泉 克夫	○	○	○	○	○	○	○	○
廣瀬 克寛	○	○	○	○	○	○	○	○
前泊 博盛	○	○	○	○	○	○	○	○
松本 文男	○	○	○	○	○	○	○	○
三井 俊彦	○	○	○	○	○	○	○	○
三宅 正樹	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎 正弘	○	○	○	○	○	○	○	○
恵 隆之介	○	○	○	○	○	○	○	○
内堀 麟太郎	×	—	—	○	○	○	○	○
穂刈 甲子男	○	○	○	○	○	○	○	○
菴谷 利夫	—	—	—	—	○	○	○	○
佐伯 浩明	○	×	×	×	×	×	×	×
周 航	○	○	○	○	○	○	○	○
名越 健郎	○	○	○	○	○	○	○	○
豊田 耕児	○	×	×	×	×	×	○	×
備前 保	○	○	○	○	○	○	○	○
有賀 正	○	○	×	×	×	×	×	×
新保 力	○	×	○	×	○	○	×	×
中野 幹久	○	○	—	—	—	○	—	—
小林 正樹	○	○	○	○	○	○	○	○
村田 吉隆								
鈴木 康雄	○	○	○	○	○	○	○	×
島 孝次	○	○	○	○	○	○	○	×
北元 喜朗	○	○	○	○	○	○	○	○
坂元 一哉	○	○	○	○	○	○	○	○

招待者参加者リスト

参加者名	10月29日	10月30日			10月31日			
	歓迎 晩餐会	開会式	第1 セッション	第2 セッション	第3 セッション	開会式	閉幕 セレモニー	答礼宴
松尾 恵司	○	×	×	×	×	×	○	—
平島 成望	○	○	○	○	○	○	×	×
宗像 隆幸	○	○	○	○	○	○	○	○
佐々木 繁雄	○	○	○	○	○	○	×	×
劉 得寛	×	×	×	○	○	○	○	○
柳平 彬	○	○	○	○	○	×	×	×
川村 泰男	○	○	○	○	○	○	○	○
益田 敏雄								
劉 文武								
羅 学鋒	○	○	○	○	○	○	○	○
王 涵	○	○	○	○	○	○	○	○
菅沼 雲龍	○	○	○	○	○	○	○	○
河野 正子	×	○	○	○	○	○	×	×
顧 鴻壽	○	○	○	○	○	○	○	○
東辻 良継	○	○	○	○	○	○	○	○
楊 千儀	○	○	○	○	○	○	○	○
斎藤 浩二								

メディア参加者リスト

社 名	参加者名	役 職	10月29日	10月30日			10月31日			
			歓迎 晩餐会	開会式	第1 セッション	第2 セッション	第3 セッション	開会式	閉幕 セレモニー	答礼宴
共同通信社	渡辺 陽介	記者	○	○	○	○	○	○	○	○
共同通信社	坂井 臣之助	編集委員兼論説委員	○	○	○	○	○	○		
産経新聞社	名雪 雅夫	編集局次長兼外信部長	○	○						
産経新聞社	野口 東秀	外信部記者	○	○	○	○	○	○	○	○
日本経済新聞社	石川 正浩	アジア部	○	○	○	○	○	○	○	○
毎日新聞社	飯田 和郎	外信部記者	○	○	○	○	○	○	○	○
毎日新聞社	近藤 伸二	台北支局長	○	○	○	○	○	○	○	○
東京新聞	佐々木 理臣	特別報道部次長	○	○	○	○	○	○	○	○
日本テレビ放送網	高橋 茂男	解説委員	○	○	○	○	○	○		
日本放送協会	川上 明人	報道局国際部記者	○	○	○	○	○	○	○	○
PHP研究所	北村 正則	取締役	×	○	○	○	○	○	○	
PHP研究所	中澤 直樹	係長	×	○	○	○	○	○	○	
朝日新聞東京支社	清水 勝彦	アエラ編集部記者	○	○	○	○	○	○	○	○